

2022年11月13日 午前礼拝
「ナザレ人イエス」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 2:19~23

19. ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが、夢でエジプトにいるヨセフに現れて、言った。
20. 「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちをつねらっていた人たちは死にました。」
21. そこで、彼は立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に入った。
22. しかし、アケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行つてとどまることを恐れた。そして、夢で戒めを受けたので、ガリラヤ地方に立ちのいた。
23. そして、ナザレという町に行つて住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる」と言われた事が成就するためであった。

【説教要約】

①モーセのような預言者

マタイ 2:19, ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが、夢でエジプトにいるヨセフに現れて、言った。

マタイ 2:20, 「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちをつねらっていた人たちは死にました。」

マタイ 2:21, そこで、彼は立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に入った。

今まで見てきました通り、マタイ 2 章はイエス様の幼少期の出来事を描いています。その一つ一つの出来事が、人にはありきたりなことに見えても、背後には神様の御計画があるのです。この 2 章を簡潔にまとめるならば、暴力的な王が幼子のいのちを狙い、幼子は国外に逃げ、王が死んだことを神様から教えられて戻って来るという内容です。

このような話を、聖書のどこかで聞いたことはありませんか。出エジプト記のモーセの生い立ちに似ているのです。モーセは、イスラエル人がエジプトの奴隷となっていた時代に生まれたイスラエル人でした。

出エジプト 1:22, また、パロは自分のすべての民に命じて言った。「生まれた男の子はみな、ナイルに投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかなければならない。」

奴隷であったイスラエル人がどんどん増えていったので、反乱を恐れてエジプト王パロは、「イスラエル人に男の子が生まれたら、ナイル川に投げ込んで殺せ」と命令していたのです。モーセはそのような時代に生まれましたが、母親がモーセを何とか生かそうとした結果、なんとエジプトの王女の養子となるのです。

このモーセを、神様はイスラエルを奴隷から解放するためのリーダーとして建てられました。モーセがイスラエルのリーダーとなるのは 80 歳の時ですが、その頃エジプトでの殺人

罪によって国外に逃げていたのです。そして神様がモーセに、「国に戻ってイスラエルを救い出さない」と言われるのです。

出エジプト 4 : 19, 主はミデヤンでモーセに仰せられた。「エジプトに帰って行け。あなたのいのちを求めていた者は、みな死んだ。」

この出エジプト記のみことばと、マタイのみことばは似せてあります。

マタイ 2 : 20, 「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちをつけねらっていた人たちは死にました。」

これは、イエス様の幼少期を通して、もう一つの出来事が成就していたからです。モーセ自身が、自分が死ぬ前にこのように預言していました。

申命記 18 : 15, あなたの神、主は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない。

やがて、モーセのような一人の預言者が現れる、と。それは、モーセがエジプトの奴隷であったイスラエルを導いたように、私たちが罪の奴隷から解放するため。またそれだけでなく、神の民とするためでした。神様の奇跡によってイスラエルがエジプトから脱出したことはご存知かと思えます。

しかしその後、イスラエルは神様と「神の民となる」契約を結ぶのです。それがシナイ山という場所で与えられた十戒です。しかし民は、神様の声を喜んで聞いたかという、むしろ恐怖におののいたのです。

出エジプト 20 : 18, 民はみな、雷と、いなずま、角笛の音と、煙る山を目撃した。民は見て、たじろぎ、遠く離れて立った。

出エジプト 20 : 19, 彼らはモーセに言った。「どうか、私たちに話してください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお話しにならないように。私たちが死ぬといけませんから。」

民は、神様が自分たちに近付いて来られるのが分かった時、恐怖に襲われて、「もうみことばを聞きたくない」と思いました。神様の御声を聞けば、死んでしまうと思ったのです。これは、民と神様との距離を現わしています。神様はイスラエルを救い出し、ご自分の民として生きられるように道を整えました。

しかしご存知の通り、エジプトから救い出された民は最期どうなったかという、度重なる不信仰のために荒野で全滅してしまうのです。神様は昔から約束されていたカナンという地へ導いていたのですが、民が神様を信頼しなかったのです。食べるものがなければ「エジプトではパンがいくらでも食べられた」と言い、水がなければ「エジプトの奴隷の方良かった」と言い、肉がなければ「エジプトのご飯は美味しかった」と言いました。実際、この時十戒が与えられましたが、その最初の戒めは、

出エジプト 20 : 3, あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。
出エジプト 20 : 4, あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。

でした。しかし神様がモーセにこのことを語っている間にも、民は金で牛の偶像を造り、自分たちの神として祭り上げていたのです。不信仰と言うものがどれほど愚かであるか知りたければ、出エジプト記を見ればありありと分かります。奇跡によって救い出されたイスラエルが、全く神様を信頼しない姿がそこにはあります。

しかし、これは「イスラエル人は不信仰だった」ということではなく、「私もあなたも不信仰だ」ということなのです。奴隷から解放されても、解放して下さった方に向かって「奴隷のままで良かった」と言ってしまうような存在なのです。奴隷じゃなくなった、その価値が、喜びが分からないのです。

それで神様がみこころである十戒を話そうとしても、「聞きたくありません。私は死にたくないから」と神様との間に恐怖がある状態なのです。いつまでも神様と離れている、悲惨な存在が人間なのです。しかし、だからこそイエス様は新しいモーセとして来てくださいました。いつか、モーセの様な預言者が来ると言うみことばの続きはこうです。

申命記 18 : 15, あなたの神、主は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない。
申命記 18 : 16, これはあなたが、ホレブであの集まりの日に、あなたの神、主に求めたそのことによるものである。あなたは、「私の神、主の声を二度と聞きたくありません。またこの大きな火をもう見たくありません。私は死にたくありません」と言った。
申命記 18 : 17, それで主は私に言われた。「彼らの言ったことはもっともだ。
申命記 18 : 18, わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのようなひとりの預言者を起こそう。わたしは彼の口にわたしのことばを授けよう。彼は、わたしが命じることをみな、彼らに告げる。

イエス様は、モーセにできなかったことをしてくださいました。すなわち、自分の力で神様に従えず、不信仰でしかない者がまず赦される道を開かれました。神様から赦しがなければ、不信仰のゆえにその報いとして滅んだイスラエルのように、私たちは皆地獄に行くのです。

そして、救い出されてなお従えない者のために、その心に住んでくださったのです。イエス・キリストを自分の救い主として信じる人は、その罪が赦され、その心には神様御自身である聖霊が住んでくださると約束されています。

エレミヤ 31 : 31, 見よ。その日が来る。——主の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。
エレミヤ 31 : 32, その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわ

たしの契約を破ってしまった。——主の御告げ——

エレミヤ 31 : 33, 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——主の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

エレミヤ 31 : 34, そのようにして、人々はもはや、『主を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——主の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

イスラエルの人々は、神様のみことばをいただいても、その心が神様から離れていたため、神様に抱いていたものは不信仰と恐怖でした。しかしイエス様が私の為に来てくださった。その事実は、本当の意味で心を神様と近くして下さいます。イエス様を信じた人には、喜びが勧められているのです。

②ナザレ人となられたイエス様

マタイ 2 : 22, しかし、アケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行くとどまることを恐れた。そして、夢で戒めを受けたので、ガリラヤ地方に立ちのいた。

マタイ 2 : 23, そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる」と言われた事が成就するためであった。

マタイに戻りまして、イエス様の幼少期に起こった最後の出来事は、ガリラヤのナザレという町に住むことでした。歴史的に見ればヘロデ大王の死後、その領地は三分割されて息子たちが治めることとなります。

イエス様の生まれた場所ベツレヘムや、首都エルサレムを含むユダヤ地方はアケラオという息子が支配することになりました。このアケラオが、父ヘロデ大王に劣らず暴虐で残酷な政治をする人だったので、イエス様一家は危険を避けるために北のガリラヤ地方へ移り住みます。そこはヘロデ・アンテパスという別の王が支配していたからです。

神様の視点では、一見意味のないようなエジプトへの逃避も、エジプトからの帰還も聖書の成就という意味があったように、このナザレに住むこともまたみことばの成就でした。逆に、人間的に見れば大きな存在である時の王様ヘロデ大王やアケラオは、そのためのわき役に過ぎません。

このナザレについての預言は、今までの預言の成就と少し異なる点があります。それは、旧約聖書に、この「ナザレ人と呼ばれる」という直接のみことばがないことです。このことは隠されたことだったので。

旧約聖書にはナザレという場所のことは一切出てきませんが、同じような言葉で「若枝」という言葉があります。ヘブル語でどちらも「ネーツェル」と発語します。言葉遊びなのです。この「若枝」が出てくる箇所をいくつか挙げてみます。

イザヤ 11 : 1, エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。

エレミヤ 23 : 5, 見よ。その日が来る。——主の御告げ——その日、わたしは、ダビデに一つの正しい若枝を起こす。彼は王となって治め、栄えて、この国に公義と正義を行う。
エレミヤ 23 : 6, その日、ユダは救われ、イスラエルは安らかに住む。その王の名は、『主は私たちの正義』と呼ばれよう。

この「若枝」とは、イエス様を指すことばなのです。恐らく、一番有名なのは次のみことばでしょう。

イザヤ 53 : 1, 私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現れたのか。
イザヤ 53 : 2, 彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。
イザヤ 53 : 3, 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。

若枝は、取るに足らないものとして登場します。イエス様ご自身、まるで取るに足らない者のようにこの世界に生まれ、生活されました。ナザレという町は、人口 400 人程度の小さな町だったそうです。そこは聖書の中心舞台であるユダヤ地方から遠く、外国人 = 異邦人が多く住む町でした。

もしもイエス様がエルサレムやベツレヘムに住んでいたなら、そこは約束の王が生まれる場所ですから、人々はイエス様を信じやすかったかもしれません。しかし辺境のナザレで育つことは、隠れた事でした。それはある人たちにはつまずきでした。

ヨハネ 1 : 45, 彼はナタナエルを見つけて言った。「私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方に会いました。ナザレの人で、ヨセフの子イエスです。」
ヨハネ 1 : 46, ナタナエルは彼に言った。「ナザレから何の良いものが出るだろう。」ピリポは言った。「来て、そして、見なさい。」

ヨハネ 7 : 41, またある者は、「この方はキリストだ」と言った。またある者は言った。「まさか、キリストはガリラヤからは出ないだろう。」
ヨハネ 7 : 42, キリストはダビデの子孫から、またダビデがいたベツレヘムの村から出る、と聖書が言っているではないか。」
ヨハネ 7 : 43, そこで、群衆の間にイエスのことで分裂が起こった。

偉大な王であるキリストが、外国の、辺境地にいるわけがない。それが当たり前でした。それである人々は、ナザレ出身ということでイエス様を信じられなかったのです。イエス様がナザレ人となられたのは、ナザレが取るに足らない見下された場所だったからです。そして、ナザレに住む見下された人々と一緒に住むためです。イエス様の働きは、この後このガリラヤ地方から開始されるのです。

思えば、イエス様がお生まれになった場所も、ベツレヘムの馬小屋でした。王様にお目にかかることなど到底許されない羊飼いたちが、会いに行ける場所でした。使徒の働きに入ると、最初のクリスチャンたちは権力ある人たちに何と呼ばれていたか。

使徒 24 : 5, この男は、まるでペストのような存在で、世界中のユダヤ人の間に騒ぎを起こしている者であり、ナザレ人という一派の首領でございます。

これは王様の前で、パウロが訴えられていることばです。キリスト教は有名になりました。しかしその始めには、「ナザレ人の一派」と呼ばれていたのです。馬鹿にする名称だったのです。

キリストはどこにおられるのか。王の住む都ではなく、田舎のナザレです。そこにいる人々とともにイエス様は住んでくださるのです。

I ペテロ 5 : 5b, 神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。

I ペテロ 5 : 6, ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。

I ペテロ 5 : 7, あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。